

## AWG 議長（2016年9月選出(再任)） 佐藤 孝平氏（ARIB）に聞く

【読者のための豆知識】

AWG の活動内容：

アジア・太平洋地域内での無線通信システムに関する周波数の調和や標準化等について検討を行うグループ

=== ===

専門領域：次世代移動通信システムの国内外の標準化活動の推進

略歴： 1975年 山形大学大学院工学研究科電子工学専攻 修士課程修了  
1975年 日本電信電話公社(現、株式会社NTT)入社/電気通信研究所 入所  
1992年 NTT 移動通信網株式会社(現、株式会社NTTドコモ) 転籍  
1985年以降 ITU-Rにおける標準化活動及びIMT-2000の  
国際アライアンス活動に従事  
2001年 ドコモ欧州研究所の発足と同時に代表取締役社長として赴任  
2002年 NTTドコモを退職/社団法人電波産業会・理事に就任  
2015年 一般社団法人電波産業会・標準化統括担当参与(現在に至る)

1987年、1992年、2003年、2007年、2012年及び2015年の世界無線通信主管庁  
会議又は無線通信会議に日本代表団の一員として参加  
2008年～2012年 ITU-R WP5DのRegion 3ラポータ  
2009年 APT無線フォーラム 副議長就任  
2014年 APT無線グループ 議長就任(現在に至る)

=== ===



— APT議長職という重責を担われていることについて任命を受けられた際のお気持ちと、それ以降の感想をお聞かせ下さい。

(佐藤) AWGの前身であるAWFの発足当初から本活動に関わっていること及び組織見直しや名称変更等をリードしたことが評価され議長に選出されましたが、日本のAPTへの継続的且つ多大な貢献が評価されたものと理解しており、総務省様を始めとする関係者の皆様に深く感謝しております。

— 現在の議長職の任期はいつまでですか？また、御自身の担当領域と経歴、APTとの関わり、その他標準化機関での活動を教えてください。

(佐藤) 昨年9月にAWG議長に再任され、昨年12月のAPT管理委員会で任期が一期3年に延長されましたので、私の議長職の任期は2019年9月までです。  
現在の専門分野は、次世代移動通信システムに関する国内外の標準化活動の推進です。1985年から標準化活動に参画しており、最初の約10年は衛星通信分野でしたが、その後は、ITU-R、3GPP及び日中韓でのIMTに関わる標準化活動に携わっています。  
APTと私の接点は、2003年11月に開催されたAPT IMT-2000フォーラムの最終会合であり、その後のAWFの組織見直しや名称変更に関しAWF副議長として取りまとめとして参画しており、APTとの係りは13年以上になります。

— APTでの活動は、私達の情報通信・放送分野における発展に非常に重要な役割があると思いますが、現在の職責における最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

(佐藤) AWGの目的は、域内における無線通信システムの高度化及び普及・促進ですが、直近の世界無線通信会議(WRC)に対してどのように貢献する又は出来るかが極めて重要と認識しています。その観点で、日本がWRC-19の新議題として提案した「将来のIMT開発のためのIMT用周波数特定の検討」を含む4つの議題に対して、AWGとして技術的な観点からどのように寄与・貢献するかが極めて重要と理解しており、APGと密に連携して進めたいと考えております。

— 議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(佐藤) 前の質問とも関連しますが、AWGの活動は、特にWRCに向けた活動では、APGと密接な協力連携が必要です。そこで、APG議長とはできるだけ密な情報・意見交換を行い、常にAWG活動にフィードバックしています。

— 議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(佐藤) 開発途上国や少人数の参加国からの意見をどう取り込むかについては、常に模索していますが、これといった妙案はありません。幅広い情報・意見交換しかないと考えています。なお、少人数の参加国が参加し易い組織構成に徐々に近づける努力をしています。

— わが国、各加盟国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(佐藤) 日本の APT への多大な貢献には深く感謝しており、引き続き総務省様を始めとする関係者の皆様のご支援・ご協力をお願い致します。  
日本からの寄与・貢献が AWG 活動を大きく推進していることは言うまでもありませんが、更に円滑な活動を行うためには、日本人がハイレベルな役職ポストに就くことも重要と考えています。その観点で知識や経験のある方々に継続的に参加して頂くことは極めて重要です。産業界全般のご理解とともにご支援・ご協力をお願い致します。

— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長としてこうした加盟国(事業体)に対して期待することはどのようなことがありますか。

(佐藤) 中国・韓国を始めとする多数の代表団で参加する国は、寄与文書も多いし発言も多いので全く問題ありませんが、開発途上国や少人数の参加国がどのような意見・見解を持っているかを探ることは重要と認識しており、そのための方策を考えることと、幅広い情報・意見交換が議長の役目と考えています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(佐藤) 標準化会合での調整は、ロビーや懇親会等での意見交換が重要と認識しており、非公式を含めて懇親会には積極的に参加しています。基本は人脈だと思います。

以前は趣味と呼べるものがいくつかありましたが、最近は、ゴルフだけです。私のゴルフデビューは、2004 年 6 月に開催された ITU-R WP8F 第 13 回会合(ドイツ・ベルリン)での休日でした。初めてクラブを握っていきなりコースデビューだったので、スコアを数えるのも途中から止めましたが、韓国代表団との楽しいゴルフでした。それ以降、土日を含む標準化会合では、外国の代表団とのグリーンミーティングを頻繁に行っており、回を重ねる毎にスコアもそこそこになってきました。めげずに付き合ってくれた外国代表団の方々に感謝です！



— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(佐藤) AWG 活動を円滑に進め、AWG 活動を更に発展・拡充させたいと考えています。繰り返しになりますが、総務省様並びに関係者の皆様のご支援・ご協力をお願い致します。